

2025 年度事業報告書(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

1. 事業報告

(1) 研修事業

① 海外現地セミナー

今年度の海外現地セミナーは、2 月にカンボジアで開催した。

なお、日程調整の結果、タイでのセミナーは 2026 年 4 月開催となり、中国でのセミナーについては、再度の調整となった。

開催国・地域(都市)とテーマ	開催日	共催団体	参加人数
カンボジア(プノンペン) 「Shaping the Future of Life Insurance: Longevity, Innovation, and AI-Driven Solutions.」	2/27	カンボジア保険協会	47 名

② 国内セミナー

国内(東京)セミナーは、春・秋ともに、英語による対面セミナーを開催した。

セミナー名	テーマ	開催期間	参加者数
OLIS 2025 Spring	シニアマーケットにおける生命保険ビジネス	5/22～5/27	48 名
OLIS 2025 Autumn	生命保険会社のオペレーション	10/23～10/28	37 名

③ 渡航費支援

今年度の国内セミナー参加者への「セミナー等参加渡航費の支援制度」による渡航費支援は、2 回合計で 26 名に 3,082 千円を支援した。

④ その他

台湾生命保険協会・監督官庁及び生命保険会社を訪問し、国内セミナーへの参加を促すとともに、生命保険市場に関する情報交換や財団の活動紹介を行った。

(2) 教育振興事業

① 生命保険寄附講座

慶應義塾大学理工学部「生命保険概論」は、10 月より 16 年目(3 年講座期間の第 6 ターム 1 年目)を開講した。

学期「講座名」	開講期間	場所	受講者数
春学期「生命保険数学特論」	9/8～9/12	慶應義塾大学矢上キャンパス	28 名
秋学期「生命保険概論」	10/1～1/14	慶應義塾大学日吉キャンパス	175 名

2014 年度より中央大学理工学部・大学院理工学部研究科において「OLIS・プルデンシャル生命・ジブラルタ生命保険寄附講座」を開設し、2025 年度は 12 年目を開始した。

講座名	開講期間	受講者数
金融工学	前期	57 名
保険数理	後期	24 名
アクチュアリー数理Ⅰ	前期	2 名
アクチュアリー数理Ⅱ (アクチュアリー数理特論)	後期	1 名

また、2022 年度より開始した、早稲田大学大学院会計研究科による寄附講座(提携講座)「生命保険の理論と経営」は、2025 年度は 4 年目を開始した。

講座名	開講期間	場所	受講者数
生命保険の理論と経営	秋学期	早稲田大学早稲田キャンパス	23 名

また、2025 年度より東北大学において「OLIS 生命保険寄附講義」を開始した。

講義名	開講期間	場所	受講者数
リスクデータサイエンスと保険	6/2～6/5	東北大学青葉山キャンパス	13 名
保険数理セミナー	7/2～11/12	東北大学青葉山キャンパス	7 名

② 保険フォーラム

本年度は、次の通り 8 回開催した。

開催大学	テーマ	開催日	参加者
早稲田大学	学部生・大学院生のためのアクチュアリー研究セミナー	5/17	56 名
東北大学	アクチュアリー研究セミナー	6/9	27 名
神田外語大学	生命保険を通じたグローバル・コミュニケーションについて	6/23	27 名
東京都立大学	保険業界におけるキャリアパス ～数理・データサイエンス・AI の活用～	10/4	15 名
慶應義塾大学	先輩アクチュアリーに聞く 「学生時代に勉強したこと。就職してから必要になったこと。」	10/25	10 名
名古屋大学	キャリアパスの深化としてのアクチュアリー	11/21	20 名
中央大学	アクチュアリー教育の今までとこれから	11/29	48 名
金沢大学	生命保険業界における数理科学とキャリアパス	12/12	28 名

※早稲田大学、東北大学、慶應義塾大学、中央大学においては、寄附講座の目的に沿い、寄附金の一部を用いて実施した。

(3) 奨学制度

生命保険を学ぶ大学生を対象にタイ生命保険協会が実施している奨学制度を助成する「タイ生命保険協会奨学制度」は、奨学生 7 名に対して一人 5,000 バーツ、合計 35,000 バーツ(163 千円)を 9 月に給費した。

ベトナムの大学において生命保険を学ぶ第三学年を修了した学生を対象とした奨学金制度「ベトナム保険協会奨学制度」について、奨学生 9 名に対して、総額 3,000 米ドル(470 千円)を 12 月に給費した。

(4) 広報・出版事業

① 論文・書籍・情報の翻訳

今年度は、「あなたから買いたい」と言われる超☆営業思考(金沢景敏著、ダイヤモンド社)を英語に翻訳し出版することを進めていたが、昨今のプルデンシャル生命に関する不祥事報道を踏まえ、出版を延期した。

② ホームページの改修

セミナー案内、保険フォーラム開催案内など最新情報の発信に努めた。

③ 「日本の生命保険の現状」の発信

日本の生命保険マーケットに関連する内容について共有することを目的に、「日本の高齢者向けサービスと高齢者住宅」(シニアライフデザイン代表 堀内裕子氏)をテーマに、英語、日本語、中国語(繁体字・簡体字)の3か国語、4文体で財団ホームページに3回掲載した。

(5) 運営委員会の開催

広い視野に立って財団の事業の在り方を検討するため、2025年度は次の方に運営委員会委員を依頼し、理事長を議長として次の通り運営委員会を開催した。

① 運営委員の選任

前田 吉昭 委員(財団理事 東北大学特任教授(客員)、慶應義塾大学名誉教授)
飯島 至雄 委員(財団評議員 元三井住友海上火災保険(株)執行役員)
寺田 重陽 委員(財団評議員 元財団理事長)
首藤 善弘 委員(財団評議員 前財団理事長)
中林 真理子 委員(明治大学教授)

② 運営委員会の開催

・第1回運営委員会

日時 2025年12月18日 17時00分～

場所 (公財)アジア生命保険振興センター 理事長室

議題 ・2025年度事業報告

・2026年度事業計画及び今後の運営方針について

2. 組織運営報告

行事	開催日	主な議事・内容など
会計・業務監査会	2025年4月25日	2024年度事業と会計の監査
第39回理事会	2025年5月13日	2024年度事業報告及び財務諸表、 経理規程の改正について、定時評議員会の 開催日時及び場所とその招集について、 評議員候補者の推薦について
第20回評議員会	2025年6月13日	2024年度事業報告及び財務諸表、 評議員の選任、理事会の決議内容及び報告 について
第1回運営委員会	2025年12月18日	2025年度事業報告、2026年度事業計画及 び今後の運営方針について
第40回理事会	2026年2月9日	2026年度事業計画及び収支予算について 2026年度資産運用計画について 臨時評議員会の開催について
第21回評議員会	2026年3月10日	基本財産の除外について(特別決議)

(1) 規程の改正

① 経理規程

昨今の物価高騰を受け、経理規程の第 25 条及び第 29 条にて定める金額的基準を引き上げた。

② 講師料等規程

保険フォーラム講師料を明記し、翻訳・通訳の区分を分けることで明確化した。

③ 出張旅費規程

昨今の物価高騰を受け、宿泊費の上限金額を引き上げた。

3. 管理部門

- (1) 事務用ノートパソコンの Windows 保守期限切れに伴い、最新 OS を搭載したノートパソコンを購入した。

4. 財務会計報告

- (1) 有価証券の売買について

公社債及び投資信託の購入、売却はなし。

5. 法人の運営体制の充実を図るための取組

- (1) 入出金及び会計管理体制の運営

誤送金また意図的な不正送金等の防止を目的として、送金担当者と承認者を別の者に設定し、牽制体制を構築している。入金については都度、複数担当者にて内容の確認を行っている。

また、顧問会計士による定期的(月次)な会計データの確認も受けている。

- (2) 運営委員会の設置

財団の事業活動を合理的かつ適正に行うため、運営委員会を設置し、定期的に財団の事業企画や運営全般にかかる多様な助言を受けられる体制を構築している。